

長崎大学 キャンパス 再編構想 学長試案



キャンパス再編で 期待も、課題も、超えていく。

なぜ、いまキャンパス再編なのか。

近年の少子化により、大学を取り巻く経営環境が厳しさを増している中、長崎大学も生き残りをかけた改革を迫られている。プラネタリーヘルスの実現に貢献することを掲げている本学は、教育・人材育成と研究力強化とを相互補完関係として位置づけ、教育研究における学際融合や、地域・産業界との連携を一層推進し、社会変革をけん引する大学を目指している。

一方で、歴史の変遷の中で段階的に整備された本学のキャンパスは、機能の混在に加え、教育研究スペースの狭隘化や老朽化・機能的劣化が進行するなど多くの課題を抱えている。未来を切り拓き、教育と研究活動の更なる発展を全学的に推進していくためには、学生や教職員をはじめ様々なステークホルダーを惹きつける魅力ある教育研究環境の整備が不可欠であることから、ここに、学長試案としてキャンパス再編構想を提言する。

長崎大学キャンパス再編構想

01

知の融合による イノベーションの創出

学生や教職員等の組織の垣根を超えた融合を促し、教育・研究を活性化させることを目指し、坂本キャンパスを生命医科学域の拠点、文教キャンパスを総合生産科学域と人文社会科学域の拠点とするため、薬学部を坂本キャンパスに、経済学部を文教キャンパスにそれぞれ移転し、キャンパスの機能整理を行う。

世界をリードする卓越した研究を強化するとともに、地域課題の解決や新学術領域の誕生を推進していくためにも、キャンパスの機能整理と併せてキャンパスの再整備を行い、十分な教育研究スペースに加え、ラーニングコモンズの確保等、学生・教職員にとって魅力ある空間を整備充実させる。

図書館やミュージアムの整備を行い、本学の保有する歴史遺産や文化遺産を、適切に未来に継承する。

02

地域に根差した 共創拠点化の推進

大学における教育・研究成果の社会還元に残らず、キャンパスを地域の公共財として捉え、人口減少や産業創出等の地域課題の解決に貢献し得る機能・環境を、地域・民間企業との連携によりキャンパス内に整備する。

女性・若手・外国人研究者等の多様な人材が活躍できる環境としてキャンパスを整備することで、国際的な共同研究体制を拡充し、グローバルな課題解決に貢献する人材育成を推進する。

03

持続的・自律的な 経営の実現に向けた 財務基盤の強化

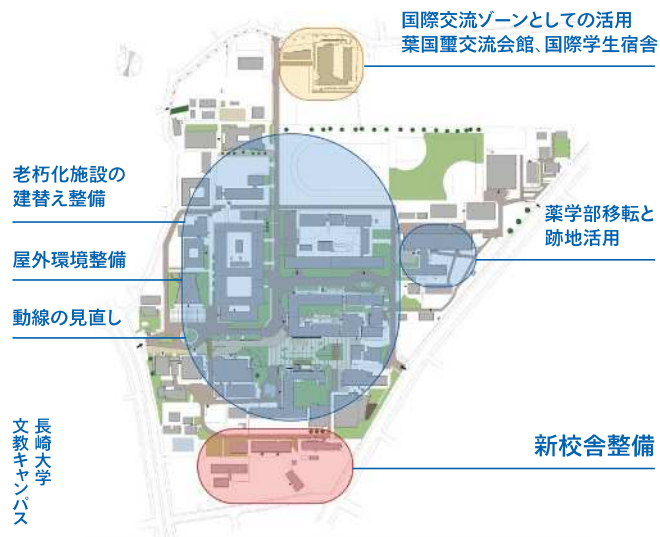
大学が保有する資産を有効活用するとともに、キャンパスへの民間活力の導入を積極的に進める。

多様かつ安定的な財源の確保することで、将来にわたって新たな「知」を創出し、「答え」を提案できる、魅力的な大学であり続けることを目指す。

文教キャンパスに整備する場合の 新校舎の姿(案)

大学の 校舎整備 知の融合を促進する

- ◆ 全学的に使用できる講義室、演習室
- ◆ 学生が自由に交流・勉強できるコモンスペース
- ◆ 図書館(書架機能を除く)、ミュージアム機能
- ◆ 経済学部、情報データ科学部、多文化社会学部の研究室



- ◆ 知の融合によるイノベーションの創出
- ◆ 地域に根差した共創拠点化の推進
- ◆ 持続的・自律的な経営の実現に向けた財務基盤の強化



共創拠点形成・財務基盤の強化に向けた民間活力の導入

A 産学共創教育に資する 環境の整備

- ◆ 地域や産業界との共創、分野を超えた共創を支える基盤整備
- ◆ 地域産業振興・スタートアップ創出のための拠点整備
- ◆ 大学の研究成果を社会に還元する機能の整備

(例)産学連携ラボ、コワーキングスペース、研究者向けレジデンス機能、JAPAN 獅市場化事業など



B 地域の課題解決の 一助となる環境の整備

- ◆ 長崎市における人口減少等の地域課題の対策に資する施設等の整備

(例)生涯学習施設、食材等配達拠点施設、物販事業、カフェ・飲食事業など



C 多様な主体に開かれた 環境の整備

- ◆ ジェンダー、年齢、国籍、障害の有無等の多様性を受け入れる環境の整備

(例)子育て支援機能、交流サロン、ライブラリ、広場、散策路など



長崎大学 キャンパス再編構想